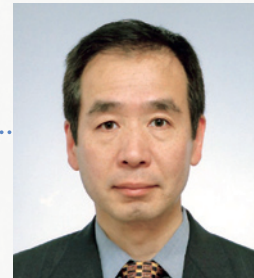


新名古屋図書館のオープン

名古屋図書館長 土橋 喜



今年の3月下旬、みよし市にあった旧名古屋キャンパスの移転が完了し、4月からささしまライブ24地区に新名古屋キャンパスが開校した。ここに愛知大学は新たな歩み始めることになり、同時に名古屋図書館も新しく生まれ変わった。

新しい名古屋図書館は厚生棟の1階から3階までの約4,650㎡を占有している。1階には図書館の受付カウンターがあり、そのほか新着コーナーとディスカッションルームおよび閲覧席がある。新着コーナーには新刊本や雑誌の最新号が並べられ、その場で手に取って閲覧することができる。2階東側には多数の辞書や参考図書が配置されており、学生の質問を受け付けるレファレンスコーナーがあり、蔵書検索用のパソコンも設置されている。

2階西側には中央に開架図書が配置され、北と南の窓側は閲覧席が整然と並んでおり、利用者は本をすぐ近くの閲覧席で見ることができる。3階は移動書架が設置され、雑誌コーナーとなっており、新聞や学術雑誌が移動書架の中に収納されている。名古屋図書館全体の座席は、ディスカッションルームを含めると、1階から3階まで約900席用意されている。館内の資料はすべて利用者が自分で手に取って見られるようになっている。

1階に3室あるディスカッションルームは、数人から30人程度のグループで、会話をしながら使えるように考えられている。間仕切りを収納して1室にすれば110人ほど収容できるので、教室や会議室のように使うこともできるので便利である。

ディスカッションルームは利用頻度が高く、予約制で利用していただいている。なかにはゼミの授業で毎週のように使われる先生もおられる。今年10月には私立大学図書館協会東海地区協議会の研究会がディスカッションルームで開催され、名古屋近辺の図書館関係者が多数来館された。

ところで図書館が作成している入館統計を見ると、2011年度の旧名古屋図書館の来館者数は一年間で317,505人であったが、今年4月から9月末日までの半年間の新名古屋図書館の来館者数は174,754人であるから、増加傾向にあることが分かる。これは図書館を利用する学部が2つ増え、在籍する学生数が旧名古屋図書館より増加していることによるものである。

また個人ブースやディスカッションルームは、やはり授業のない夏休みは利用が少なくなるが、これらは今年度からの新たなサービスであるので、次年度以降の利用統計と比較する以外にない。

図書館もやはり多くの利用者に来ていただかなければ、いろいろな資料を購入し立派な設備を備えている意味がない。図書館長として利用者がさらに増加するよう可能な限り貢献したい。